

# 令和5年度 周南市地産地消推進協議会合同専門部会（第3回）

〈しゅうなんブランド見直しワークショップ〉

## 会議内容

日時：令和5年11月29日（水）14時～16時

会場：周南市役所本庁舎 多目的室

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 事務局からの説明（これまでの振り返りとこれからについて）
4. 本日のプログラムについて
5. ワークショップ

### 【周南市地産地消推進協議会ワークショップ】

テーマ1：「しゅうなんブランド」はどのような方向性で見直すべきか

見直しのレベル	賛同者数	補足
A：現状維持 ブランド制度自体の見直しは必要ない	なし	・制度自体や認定基準は今のままでOK ・緩やかな認定基準で数多く認定する制度 ・PRの手法を強化する
B：高レベルなものにする	6名	厳選型 例) 1年で1品認定できるかどうか
C：現状維持と高レベルの間のものにする	10名	

テーマ2：現在の認定基準をもとに具体的に考えてみよう

#### 質問① 素材について

※現在の認定基準は、採点シート内に記載のとおり①と②で構成されるが、①「食品表示に記載されている最も分量の多い原材料が100%周南市産」のみにすることについて

<p>100%周南市産でなくても良い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべてのものが周南市産というより“おいしい”というこだわりが強いかが重要だと思う（<u>メインが周南市産なら良い</u>）</li> <li>・<u>地産地消を向上させるため100%であるが、75%程度でも良い</u></li> <li>・100%でなくても良い、特に加工素材では難しい</li> <li>・量的に少ないので</li> <li>・素材の基準緩和</li> <li>・素材または製造（生産）では%は言わなくて良い</li> </ul>
<p>100%周南市産</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周南市産100%はしゅうなんブランドとして大切だと思う</li> <li>・<u>100%は大事</u></li> <li>・周南市メインが100%は妥当、②はいらない気がする</li> <li>・周南市産100%にしたほうが良い</li> <li>・そのまま、②は難しい</li> </ul>
<p>その他（0%でも良い）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周南市産＝市内で収穫されたもの、≡他地区で収穫されたものを価値を付けた場所が周南市、≡水産物は水揚げ場所、就業場所？</li> <li>・周南市産にこだわらない</li> <li>・②を基準に生産者が周南市に関わる方</li> <li>・〇〇が周南市産と発信できるもの</li> </ul>

※その他の意見

- ・地産地消にこだわらなければ素材、生産者の価値がある、高めることができる
- ・（公財）地場産業振興センターでは、素材ではなく周南地域で加工、製造されたものを認定している（周南ものづくりブランド）
- ・加工技術は他市で実施

質問② 信頼性・安全性について

<p>国の基準を満たしている 品質管理 食品表示</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全基準を確実に守る</li> <li>・誰がどこでつくり、何が入っているかが分かること</li> <li>・シンプルに食品安全基準（国）を満たすものであればよいと思う</li> <li>・食品表示（アレルギー）</li> <li>・食品表示の徹底ができていないかしゅうなんブランドで審査</li> <li>・無農薬、基準値厳守、品質管理の体制はできているか</li> <li>・トレーサビリティ(畜産)</li> </ul>
--------------------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の基準は欧州に比べて低いため、気を付ける必要がある</li> </ul>
製法の安全性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全性の高い製法</li> </ul>
モラル 信頼性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トラブルにすぐに対応できるか（信頼性）</li> <li>・安全性とはだれに対してなのか、人によって異なるケースがある</li> <li>・製造者のモラル</li> <li>・無農薬の難しさ、信頼性とは人なりによる</li> <li>・加工技術の中で安全性を高めている、生産する段階で減農薬</li> <li>・信頼性は生産者および加工者で決まり、安全性は薬物を使用しなければ良い（安全：基準をクリア、信頼：個人の考え方）</li> </ul>
生産者の顔が見える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、子どもにも安心と胸が張れる</li> <li>・生産場所が見える（写真や見学ツアーなど）</li> </ul>

### 質問③ 独自性・品質性について

独自性は必要か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独自性は除いたほうが良い</li> <li>・おいしければよい、独自性、品質性はいらぬ</li> <li>・基準が不明瞭</li> <li>・周南で製造しているはよりよい（特別感はいらぬ）</li> <li>・その土地（〇〇）ならではの「〇〇の～（商品）」と言える押し</li> <li>・独自性⇒類似商品との比較、品質性⇒素材の安全性を含めて感じるもの</li> <li>・独自性は他にないもの、周南をイメージ、PRできるもの</li> </ul>
味、外観は	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味が良いこと、その所品を手にとってみようと思ってもらえる（外観）</li> <li>・ネーミングは必要</li> </ul>
プレゼン認定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンしてもらおう、項目を設けず、7割で合格OK</li> </ul>
こだわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こだわりの付加価値が認められるもの</li> <li>・ストーリー性を大切に、こだわりを大切に</li> </ul>
消費者からのアイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者と話す中でアイデアを見つけることがある、その積み重ね</li> <li>・奇をてらうものではなく、おいしさは消費者の意見の中にある</li> <li>・研究会の実施、販促やPRも一緒に</li> </ul>

#### 質問④ 市場性・将来性について

※「ブランド認定することにより消費拡大が見込めるか」について、例えば消費者にとって身近な量販店で取り扱ってもらえるのか

県外・観光客に向けて販売	<ul style="list-style-type: none"><li>・県外に向けて販売する意欲</li><li>・周南フードツーリズム、スーパーマーケットツーリズム等</li></ul>
販売アイデア	<ul style="list-style-type: none"><li>・期間限定で販売</li><li>・安定的な生産、販売のためにはシーズン限定も可</li><li>・しゅうなんブランドのギフトセットがあると使いやすい</li><li>・しゅうなんブランドを地図に示す</li></ul>
消費者ニーズ	<ul style="list-style-type: none"><li>・購入しやすくすることで消費者拡大につながる</li><li>・消費者ニーズ、指向をきちんと捉える</li><li>・せっかくの生産物が地元で販売されていないので取り組むべき</li><li>・希少だからこそしゅうなんブランドフェアをお店でブランド品を変えながら定期的に目につく頻度を上げる</li></ul>
こだわる必要はない	<ul style="list-style-type: none"><li>・市場性、将来性はしゅうなんブランドの認定には必要ない</li><li>・消費者拡大、安定的な生産や後継者育成等にはこだわる必要がない</li><li>・本当に流通しているのかわからない</li></ul>

#### 6. 総括

#### 7. 閉会